

2019年5月14日

報道関係者各位

日本歯磨工業会

## 2019年度 歯と口の健康週間にあたって

日本歯磨工業会（会長 濱田和生）では、来る6月4日から始まる歯と口の健康週間（6月4日～10日）に向けて、例年どおり、口腔衛生を呼びかける歯と口の健康啓発ポスターを制作し全国にお届けします。

本リリースでは、名称変更から6年目を迎える「歯と口の健康週間」に関連する取り組みと当工業会の活動についてご紹介します。

### 『歯と口の健康週間の沿革』

「歯と口の健康週間」の前身である「歯の衛生週間」は、国民に対する歯科衛生思想の普及運動として、1928年6月4日に「むし歯予防デー」の名称で行われたのに始まり、以後、戦時中一時中断しましたが、1949年から週間行事となりました。1952年には6月4日から10日までの1週間に定められ、1958年より「歯の衛生週間」として毎年実施されるようになり、2013年より「歯と口の健康週間」として新たにスタートしました。

### 『2019年度 歯と口の健康週間について』

目的：この週間は、歯と口の健康に関する正しい知識を国民に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図り、併せてその早期発見及び早期治療等を徹底することにより歯の寿命を延ばし、もって国民の健康の保持増進に寄与することを目的とする。

標語：「いつまでも 続くけんこう 歯の力」

（栃木県 佐野市立田沼小学校4年 田波 舜祐さんの作品）

本年度の重点目標：

「生きる力を支える歯科口腔保健の推進

～生涯を通じた8020運動の新たな展開～

歯と口は国民が健康に生きていく力を支えるものであり、歯科疾患の予防や歯と口の健康を保持する取り組みを進める必要があることから、「生きる力を支える歯科口腔保健の推進」を重点目標とする。

実施期間：2019年6月4日（火）～同年6月10日（月）まで

主催：厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会、日本学校歯科医会

## < 1 > 2019年度 歯と口の健康啓発ポスターの配布

当工業会では、例年どおり今年も口腔衛生を呼びかけるポスターを制作し、全国にお届けいたします。

### 『企画・制作』

厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会、日本学校歯科医会及び日本歯磨工業会

### 『デザイン』

 アランジアロンゾ (B3サイズ 多色刷り)

### 『2019年度 標語』

「いつまでも 続くけんこう 歯の力」

【日本学校歯科医会】が募集した小中学校の標語の中から

栃木県 佐野市立田沼小学校4年 田波 舜祐さんの作品が選定されました

「8020運動を進めよう」(厚生労働省・日本歯科医師会が提唱する口腔保健の目標)

「一生、自分の歯で食べよう」(日本歯科医師会の標語)

「午後のスタートハミガキから」(日本歯磨工業会の標語)

### 『配布』

ポスター26万枚を作成し、全国の小・中学校をはじめ、保健所、歯科医院、各関係官庁、協力団体などへ配布し、口腔保健の大切さ、毎食後の歯みがきの大切さを呼びかけています。

### 『活用』

このポスターは、歯と口の健康週間だけでなく、「口腔保健の必要性を訴求する年間ポスター」としてご活用をお願いしています。「歯と口の健康週間(6月4日～10日)」後は、下部の日付部分を切り取って、ご使用いただけるレイアウトにしています。



2019年度 歯と口の健康啓発ポスター

## < 2 > ホームページからの情報発信について

「みがこうネット」では、新たなコンテンツの追加、情報の更新など、生活者のみなさまへ歯や歯みがきに関する情報を発信しています。また、「工業会サイト」では、会員各社の製品一覧や歯磨出荷統計の掲載など工業会の活動の様子を適時伝えています。【 <http://www.hamigaki.gr.jp/> 】

### 1. 2018年度の「みがこうネット」「工業会サイト」の閲覧者状況と人気コンテンツ

#### ●閲覧者の状況

総アクセス数は前年比2.7万件増の33万件、閲覧者は女性72%。男性28%で女性比率が前年比8%増、閲覧端末は、スマホなどモバイルが54%、PC39%、タブレット7%でモバイルが前年比13%増、PC15%減、タブレット2%増、元々業界関係者のPC閲覧も多いという特徴がある中で、30才～40才代の子育て女性によるスマホからの閲覧が増えていることがうかがえます。

#### ●人気コンテンツの状況

2017年にスマホ向けに見やすく改訂したこどもの年齢別歯育て情報ページ「パパ・ママ・キッズ歯育て講座」のアクセス数が昨年は1.3万件増加、昨年12月掲載の新規コンテンツ「歯みがきしない子にかかってくる！？歯みがき電話」も人気コンテンツとなりつつあります。



### 2. 「みがこうネット」の2019年度コンテンツ制作・更新予定

#### (1) 歯みがき啓発のための読者参加型キャンペーンの継続実施

- ①第19回歯と口の健康週間企画「標語募集キャンペーン」(4月～6月)
- ②第8回「クイズに答えて『歯カセ』になろう！歯みがきクイズキャンペーン」(8月～10月)

#### (2) 2019年度の新規コンテンツ

歯みがきなどオーラルセルフケアのコツをわかりやすく楽しく紹介するコンテンツを制作

#### (3) 各コンテンツの企画案

- ・ファミリー広場 おかずレシピ (年1回更新)
- ・OLカフェ おやつレシピ (年1回更新)
- ・はみがき学級 はみがきカレンダー (年4回更新)
- ・がんばれ！みがく君 (年2回更新)
- ・メールマガジンの継続発行 (キャンペーン開始・新コンテンツの告知)

### 3. 歯と口の健康週間企画

#### ●第19回標語募集キャンペーン

歯と口の健康週間に合わせ、「歯の大切さ、口の健康の大切さを言葉にしてみませんか」をテーマに標語を募集し、歯と口の健康の関心を喚起すると共に歯磨の重要性を啓発します(4月1日～6月30日の3ヶ月間で実施中)。最優秀賞、優秀賞、ユニーク賞、ファミリー賞、佳作、キッズ最優秀賞、キッズ優秀賞に選ばれた32作品の作者の方に賞金や記念品を贈呈し、当工業会の標語として幅広く活用していきます。本年は、昨年度の応募作品総数14,033作品を上回る応募を目指します。

### < 3 > 啓発冊子の配布

オーラルセルフケアの重要性や効果的なケア方法を解説する冊子を適宜改訂しながら配布しています。

- 保健指導者向けテキスト「歯を守る—健やかな生活は口腔保健から」（A 4 版、イラスト・図版多用）  
全身の健康維持増進に関わる口腔保健の重要性や、歯磨剤の働き、効果的な歯みがき方法などを解説
- 歯科専門家向け「歯磨剤の科学」（B 5 版、データ図表多用）  
口腔保健剤の歯磨剤の基本的機能、薬用歯磨剤の効果、安全性、セルフケアなどを解説

### < 4 > 日本歯磨工業会の最近の主な活動のご紹介

- 歯科衛生士養成校、歯科衛生士会等での特別授業（講演）開催  
日本歯磨工業会では技術委員会が中心となり、歯みがきに関する正しい情報を提供することを目的に、1993年から毎年、歯科衛生士養成校および歯科衛生士会へ専任講師や技術委員を派遣して特別授業、講演会を開催しています。2018年度は34件の特別授業を開催し、歯科衛生士養成校の学生1,453人の方に受講いただきました。本年度も積極的な活動を展開します。
- 世界の口腔衛生の発展に貢献する活動  
2015年から中国口腔清潔護理用品工業会との交流活動を実施している他、2018年からは、経済産業省・日本歯磨工業会共催のもと、タイ・マレーシアの保健省、歯科医療関係者、流通関係者、歯科衛生士を目指す学生に日本の歯科保健活動、歯科衛生士業務やオーラルケア製品を紹介する「オーラルヘルスケアセミナー」を実施、2019年1月28日～2月1日は現地へ訪問団を派遣しました。
- 自治体との連携による高齢者の健康づくりに貢献する活動  
2019年3月19日、藤沢市善行公民館にて藤沢市善行地域包括支援センターと共催で高齢者向けに「健康長寿のためのお口と歯の健康教室」を開催しました。今後も、自治体との連携による高齢者のオーラルセルフケア啓発活動を実施していく予定です。

#### ■日本歯磨工業会について

国民の口腔衛生の普及・向上に寄与するとともに、健康産業として歯磨及び関連業界の発展を図ることを目的とした団体で、行政官庁、関連業界、消費者団体等との情報交換、歯磨剤に関する情報提供、口腔衛生に関する健康啓発情報の情報発信を行っています。例えば、「歯と口の健康週間」に協力し、歯磨剤を通じての口腔衛生の普及・向上を図るキャンペーンを行っているほか、ISO などの国際会議に積極的に参加し、歯磨剤等の国際規格作成にも協力しています。1971年6月に設立、会員13社、賛助会員13社が参加し、業務委員会、広報委員会、広告委員会、技術委員会、薬事委員会で活動しています。

本件のお問い合わせ先： 日本歯磨工業会 岩崎 哲也 TEL 03(3249)2511

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-4 三報ビル7F

TEL03-3249-2511 FAX03-3249-2513 <http://www.hamigaki.gr.jp/>

## 2019年度「歯と口の健康週間」にあたって

日本歯磨工業会 会長  
濱田 和生

「歯と口の健康週間」が今年も6月4日から10日まで、全国的に展開されます。本週間の目的は、歯と口の健康に関する正しい知識を国民の皆様に対して普及啓発するとともに、歯科疾患の予防に関する適切な習慣の定着を図ることにあります。また、歯の健康だけでなく、歯を含めたお口全体の健康意識を高めることにより、「お口からの全身健康への貢献」を目指していくものです。

当工業会においても、会員各社の理念と総意のもとに、歯磨についての正しい理解を助け、口腔保健の普及に役立つ種々の活動を行っております。

さて、2017年7月に発表された2016年の日本人の平均寿命は、男性が 80.9歳、女性は87.1歳となり、いずれも過去最高を更新し、引き続き、世界トップクラスの長寿国になっています。一方、平均寿命と健康寿命の差は、男性が 8.8年、女性が12.3年と大きく、高齢化率が増加傾向にあるなか、介護を必要とする高齢者は今後も増加していくものと推測されます。

健康寿命を延伸し、健康格差を縮小することは、健康長寿社会を実現するための国の課題でもあります。厚生労働省が提唱する健康日本21では、「歯と口腔の健康」分野における、う触予防と歯周病予防による健康寿命の延伸が分野目標として設定されています。子供から大人までの全世代にわたり、口腔衛生意識をいっそう高め、日常生活の中に浸透させていくことが、生活習慣病等の全身疾患の予防につながり、国民の健康増進・健康寿命の延伸に貢献するものと考えております。当工業会は、行政の施策

や国民運動に支えられ、今後も国民の健康づくりに貢献してまいります。

当工業会でまとめた出荷統計によりますと、2018年の歯磨販売金額は、1379億円となり、5年前の2013年と比較すると318億円増、成長率では33%増となりました。これには様々な要因が考えられますが、健康日本21に代表される国の施策の充実、歯科医師や歯科衛生士を中心としたプロフェッショナルによるオーラルケアの重要性の啓発、そして、将来の自分や家族の健康に対する身近な取り組みとして、お口の状態やライフステージごとのニーズに合ったオーラルケア製品を選ぶというセルフケア意識の高まりがあると考えられます。

このような国民の皆様の健康意識の高まりをふまえ、当工業会では、2018年5月、「歯と口の健康を通じて、人々の快適な生活の実現と健康寿命の延伸に貢献する」ことを使命と定め、この使命を果たすための5つのビジョンを掲げました。現在は、日本歯磨工業会設立50周年となる2021年に向け、ビジョン実現のための施策を議論しながら、徐々に工業会の活動に反映させている段階で、今後さらに、使命を果たす活動を加速してまいります。

その中でも「歯と口の健康週間」は、たいへん重要な位置づけになります。当工業会では、「歯と口の健康週間」の意義と目的を周知するため、官民一体となった広報活動を展開してまいります。例年通り、厚生労働省、文部科学省、日本歯科医師会等と協力して「歯と口の健康啓発ポスター」の制作・配布をはじめ、標語募集キャンペーンなど幅広く展開し、「歯と口の健康週間」の一層の盛り上げを図ってまいります。

皆様方には格別のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。